

湖山地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成29年11月17日（金） 19:00～20:25

2 会 場 湖山地区公民館

3 出席者 地元出席者 31名
市側出席者 14名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中中核市推進局長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、浅井経済観光部長、綱田都市整備部長、雁長危機管理課課長補佐、田川秘書課課長補佐

<事務局>福島協働推進課長（司会）、宮崎協働推進課課長補佐、有本協働推進課主事、北村協働推進課主事

4 地域の重要課題について

1 「地域コミュニティの強化」への対応策について

<地域課題>

現在、地域コミュニティは人口減少や住民の高齢化、小規模家族世帯の増加等により弱体化しつつあることから、今後更なる「地域コミュニティの強化」が求められている。この強化への対応策として、下記の2点の課題を解決する必要がある、市の強力な支援をお願いしたい。

- ①「町内会（自治会）への加入、退会は任意」である反面、「地域を代表する唯一の組織であるためには、加入は住民の責務」という矛盾の解決策、及び未加入者に対する「地域住民の努力へのただ乗りを許さない」という地域住民感情への対応策。（一町内会活動では解決困難）
- ②地域人材情報の提供と人材派遣等の支援
 - a) 地区自治会活動強化のためには、“企画力”や“書類作成能力”を持った事務局としての人材確保が必須である。下記b項とも関連するが、専門事務局要員の派遣等が期待される。（人材発掘と人件費負担の問題）
 - b) 「役員になりたくない」住民が大半を占めるなか、“地域の世話役”に最も近い存在と考えられる「教員、市・県職員、警察官」等のOBの情報提供、または派遣支援をお願いしたい。

<担当部局の所見等>

【地域振興局】

①本市では、町内会の組織強化を図り活性化することが、地域コミュニティの維持、発展につながるものと考え、転入者に町内会加入の必要性を説明するパンフレットを渡すとともに、市報やホームページなどで加入促進を働きかけています。

また、鳥取市自治連合会では、本年度、加入促進検討委員会を設置され、今年10月から集合住宅を中心に加入促進に向けた具体的な取り組みを進められており、市としても、加入促進のため新たに雇用された加入促進推進員2名やチラシ作成等の経費について支援

しています。

今後も引き続き、鳥取市自治連合会と連携し、加入促進の取り組みを進めていきたいと考えています。

②ご提案のありました職員等OBは私人であり、市として情報提供や派遣支援を行うことは、現実問題として難しいと考えます。

自治会活動に限定した事業ではありませんが、地域の人材確保については、地域コミュニティの活動拠点となる地区公民館がまちづくり協議会の事務局を担うほか、地域のリーダー実践者の養成を目的とした「とっとりふるさと元気塾」やまちづくり協議会関係者を対象とした研修会の開催などにより支援しているところです。

また、本市では、「私たちは、地域の活動に積極的に参加します。」を職員行動指針の一つとしているところであり、地域を支える人材となる職員の育成にも力を入れていきたいと考えています。

(地域振興局長)

鳥取市内には833の町内会があります。平成20年の町内会加入率は72.8%でしたが、平成29年の加入率は65.9%と、かなり低くなっています。本市としても加入促進に力を入れたいと考え、転入者に町内会の必要性を説明するパンフレットを渡すとともに、市報やホームページなどで加入促進の働きかけを行っています。

本年度、鳥取市自治連合会では加入促進検討委員会を設置し、今年10月からは加入促進推進員2名を新たに雇用されました。現在は集合住宅を中心に、加入促進に向けた具体的な取り組みを進めておられます。

今後も引き続き、鳥取市自治連合会と連携し、加入促進の取り組みを進めていきたいと考えています。

人材情報の提供について、ご提案のありました教員、市・県職員、警察官等のOBは私人であり、市として情報提供や派遣支援を行うことは、現実問題として難しいと考えています。町内会の活動に限定したことはありませんが、人材確保については、地区公民館がまちづくり協議会の事務局を担うほか、地域のリーダー実践者の養成を目的とした「とっとりふるさと元気塾」や、まちづくり協議会関係者を対象とした研修会の開催などにより支援しているところです。

また、本市では、「私たちは、地域の活動に積極的に参加します。」を職員行動指針の一つとしており、地域を支える人材となる職員の育成にも力を入れていきたいと考えています。

(地元意見)

本日の地域づくり懇談会には市の幹部職員は出席していますが、地区住民側の席に市の職員は来ているのでしょうか。私も以前は市職員でした。市職員は地域の行事に出ないので、出るようになってと言われて私は出席していましたし、役員も務めていました。

現役の市職員に地域の役員になってもらうようお願いできないのでしょうか。

(深澤市長)

全員ではないとは思いますが、例えば消防団の団員として非常に長年にわたって活躍していたり、町内会の役員を何度も経験しているなど、いろいろな形で地域に参画している職員もたくさんいます。今後も、仕事も一所懸命してほしいと思いますし、地域の行事や取り組み等にも大いに参加してもらえよう、引き続き呼びかけていきたいと思っています。

(地元意見)

地域が人材をどうやって見つけるかが、非常に大きな問題です。個人情報が出せないことは、一般論として重々分かっています。ただ、1,500世帯あるから必ず人材はいるはずなのに情報がなく、町内会長ですら知りません。

法律違反をしてくれとは言いませんが、一般論でこうだからだめと言うのではなく、こうすれば我々地域の悩みが解決できるのではないかというアドバイスがほしいというのが、この質問の趣旨です。

(深澤市長)

ご質問の趣旨については、我々も重々承知しています。以前と比較して、個人情報に関わる部分の取り扱いは非常に限定的になってきています。その中で我々も何とか知恵を絞って対応できそうなことを考えていかなければいけないと思っていますが、回答としてこのような形になってしまうことは、ご理解いただきたいと思います。

目的とするところは個人情報の提供ではなく、地域コミュニティの維持確保のための方策を考えていくことに尽きると思います。個人情報の取り扱い等に影響しないような方策を考えていく必要があると思っていますので、課題として受け止めたいと思います。

(地元意見)

回答には、転入者にパンフレットを配布していると書かれています。鳥取市内の住宅団地は民間開発が多いので、何十年か前は建築の申請窓口にパンフレットを置いて配布していたと思うのですが、最近ではこの光景が全く見られません。せっかく窓口があるのだから、転入者だけではなく、家を建築する前の人達にも配布してほしいです。

(深澤市長)

今後もパンフレット等を配布したり、鳥取市自治連合会と連携して加入促進に取り組むなど、いろいろな形でこの問題に取り組んでいきたいと思っています。

(地元意見)

町内会の加入率が年々低下しているとのことですが、低下の理由は何ですか。

(地域推進局長)

未加入の方に直接理由をお伺いしているものではありませんが、集合住宅にお住いの方になかなか加入していただけない、あるいは町内会の役員をしたくないなどの理由で退会

されるなど、様々な理由があると思っています。

(地元意見)

鳥取市自治連合会が集合住宅の加入促進に取り組み始めたことは知っています。我々が問題にするのは、町内会に加入している人でも、退会しても何も困らない、市に相談したら「退会も自由だ」と言われたなどの理由により、町内会を退会する人があることです。

加入促進も一つの取り組みではありますが、退会する人を何とか食い止めることにも目を向けてほしいです。これは非常に大切なことです。ただ乗りする人が増えているということ。

(深澤市長)

これは難しい課題であり、従来から本市もいろいろと検討を重ねてきました。鳥取市だけではなく全国的に同様の傾向があります。地域コミュニティ、町内会等に参加して活動することが負担だと感じられる方もあるようです。以前と比較して社会の価値観が多様化してきていることも理由の一つではないかと思えます。個々の生活を一番大切にするという考えの方もおられるでしょうし、町内会の役員が回ってくるのが負担だとの声を直接伺ったこともあります。

今後、少子高齢化や人口減少はますます進行していくと考えなければなりませんし、これまでと比較しても、地域での確かなつながりや支え合いが非常に大事になってきます。町内会は、一番重要な地域の組織だと思います。個人の自由や価値観を尊重する中でも、町内会を皆様に維持していただき、機能していけるような方策を考えていくことは、鳥取市の大変重要な課題です。強制力をもって取り組みを進めることは難しいですが、平成20年に制定した「鳥取市自治基本条例」でも市民の責務を規定していますので、これからも様々な機会に働きかけをしていくことが必要だと思っています。地域のつながりの必要性を市民の皆様にご理解いただけるよう、我々も努力していかなければならないと思っています。

決め手になるような方策が見出せないという面も正直ありますが、必要性や重要性をお互いに認識しながら、少しでも退会されず、できれば加入していただくにはどうすればよいか考え続けていきたいと思っています。

(地元意見)

町内会の加入率が低下すると、いざ災害が発生した時に果たして自主防災会が機能できるのか、という大きな問題があるのです。防災の視点で、市はどう考えていますか。

(深澤市長)

おっしゃるとおりです。地域防災力向上のために必要なのは、自主防災会の組織率を高めていくことと、町内会等に参加していただくことだと思います。

大きな災害が発生した時に行政が対応しきれぬかという点、残念ながらそのようにはならないと考えています。災害発生時に自分の身を自分で守る行動を速やかにとり、そして近隣の方や近くの方で助け合っていただく、この「自助」と「共助」について、平素から

防災訓練等を行って確認しあっていただくことが、被害を最小限に留めるためには非常に大切だと思います。こういったことで地域防災力の向上を図っていくためにも、地域コミュニティの維持確保が非常に大事ですので、防災面からもしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

(地元意見)

回答には、「地域コミュニティの活動拠点となる地区公民館がまちづくり協議会の事務局を担う」と書かれていますが、地区公民館の職員は従来からの生涯学習業務をこなし、そこにまちづくり協議会の事務が加わって、さらには町内会との関わりもあります。平成22年に地区公民館職員は1名増員されましたが、単に地区公民館職員に事務局を任せるという安易な考え方は破たんすると思います。今後、地域コミュニティの機能強化を考える時には、今のままの態勢ではなく、もう少し実態を見た上で事務局の強化を検討してほしいです。

(深澤市長)

今後少子高齢化や人口減少が進行していく中で、地区公民館の果たしていく役割や機能はますます重要なものになっていくと考えています。地域コミュニティの拠点として、生涯学習の拠点として、今の体制でよいのかといったことも検討課題だと考えています。

地区公民館長を始めとした職員の処遇等も含め、どうあるべきか現在検討を重ねているところです。検討のための検討ではなく、将来を見据えて考えていかなければいけないと思っています。

2 湖山池の活用について

<地域課題>

近年、湖山池遊覧船の利用客が増加し、湖山自治会でも天神山城跡のまつりの一環として利用した。池から周りを見渡す中で、観光地としてのインパクトがもう少しあればと思っている。また、天神山城跡から湖山池を眺めた時に、樹木の成長が早くて眺めがよくないとの声があるので、定期的な伐採をお願いしたい。

現在の遊覧船の乗り場は土砂堆積の問題があり、場所の変更を検討しているとのことなので、乗り場をナチュラルガーデンの近くに変更し、天神山城跡や湖山自治会における「霞の里ヒストリーロード」との連携として、一体的に整備してほしい。

<担当部局の所見等>

【経済観光部、都市整備部、教育委員会】

山陰海岸ジオパークエリアである湖山池周辺は、豊かな自然環境と景観に恵まれた本市の貴重な観光資源です。

鳥取西道路全線開通と吉岡温泉インターチェンジの整備により、今後、湖山池周辺へは新たな人の流れの増加が期待されることから、本市としてもこれを好機と捉えて湖山池の魅力を発信していくとともに、吉岡温泉や白兔海岸など周辺エリアと連携した周遊観光を進めていきたいと考えています。本年度は、吉岡温泉館のリニューアルと湖山池阿弥陀堂

の再整備への支援を行い、湖山池及び吉岡温泉の周遊促進に向けた環境整備を進めています。

○天神山城跡の管理について

布勢天神山城跡は、県の指定文化財（史跡）であり、県有地として県が管理されています。樹木の定期的な伐採などの管理について、県に働きかけてまいります。

○遊覧船の乗り場について

本年度秋季をもって一時運行を休止する湖山池遊覧船については、本市としても、乗り場の変更も含め、早期再開に向けて運行事業者や関係機関と連携を図りながら調整を進めたいと考えています。

○ナチュラルガーデンについて

市民の皆様が自由に植物の自然な姿を楽しめる場として、引き続き、指定管理者や鳥取市公園・スポーツ施設協会等と連携し、維持管理、普及・啓発活動を進めていくとともに、花と緑のフェア、フラワーフェスティバルなどのイベント会場としての他団体による利用促進ならびに周辺施設との一体的な活用について、関係機関と連携してPRに努めてまいります。

（経済観光部長）

湖山池は山陰海岸ジオパークの重要なジオサイトであると認識しています。来年には鳥取西道路が開通しますので、これを好機と捉えて交流人口を増やしていきたいと考えており、現在は、湖山池と周辺地域の観光振興に努めているところです。本年度、来年春の開館予定で吉岡温泉町が新しい温泉会館の建設に取り組んでおられ、本市として建設に対する支援を行っています。また、三津地内、津生島を正面に望む場所に、公益財団法人鳥取民藝美術館所有の「湖山池阿弥陀堂」があります。この建物は、昭和39年に吉田璋也が建てたものですが、この再整備に当たり、本年度、県と市が歩調を合わせて支援を行いました。今後は、湖山池の観光振興における新たな拠点にしたいと考えています。

天神山城跡は、緑化フェアの際、頂上からの眺望を良くするために樹木を伐採したと聞いています。この城跡は、昭和51年に県が指定された文化財史跡であり、県有地として県が管理されています。県も伐採の必要性を認識しておられますので、本市としても伐採等管理について働きかけを続けていきたいと思っています。

平成26年10月に、約30年ぶりに湖山池の遊覧船が復活しました。青島に約10mの浮棧橋を設置し、22人乗りの遊覧船2隻が運航されていましたが、今年春に土砂等の堆積が見られたことから、山陰松島遊覧さんは来年度の運行を休止されることとなりました。一つには、浮棧橋が西風と北風に非常に弱いことがあります。今年の年明けも、浮棧橋が真二つに割れたことがありました。船を停泊させるには状況の悪い場所であり、山



陰松島遊覧さんとしてはナチュラルガーデン近くの東側であれば風よげができるとのことで、ナチュラルガーデン付近への新たな発着場の整備をご要望いただいているところです。ナチュラルガーデン駐車場の北西側と、南の桂見側にそれぞれ一隻程度の船溜まりがありますが、現在は南の船溜まりへの停船が可能かどうか、水深等の調査を実施しているところです。また、発着場が変更になると遊覧船の航路も変わるため、湖山池漁業協同組合の皆さんとコース変更について協議する必要があると考えています。

阿弥陀堂の再整備を支援したのも、実は湖山池遊覧船のメニューに阿弥陀堂を加えてもらえればと考えたためです。阿弥陀堂の下にも、以前湖山池漁業協同組合が使用されていた船溜まりがあります。遊覧船でこの船溜まりまで行って一度降船し、30mほど上がれば阿弥陀堂ですので、例えばそこでお茶を飲んでいただくなど、新しいメニューもできるのではないかと考えています。

平成26年6月から、土日・祝日と夏休み期間中には、循環バス「ループ麒麟獅子」を運行していますが、ナチュラルガーデン駐車場内に新たに駐車場を設け、砂丘から帰る観光客が必ずここに立ち寄るようなコース取りをしています。この観光客を湖山池にも呼び込み、さらに駐車場近くに発着する遊覧船と連携すれば、観光客も増えるのではないかと考えています。これらについて、湖山池漁業協同組合を含めた関係機関と早急に協議を進めたいと思います。地元の皆様のご理解も必要ですので、その際は改めてご協力をお願いします。

(地元意見)

湖山池で使用している船の多くは長さ5m、最長でも6mはありません。今ある船溜まりは、基本的にそれらの船を基準に整備されています。湖山池遊覧船は倍とまで言いませんが、船が長いです。今あるものを活用するとのことですが、長さが足りない部分の整備をどこがするのでしょうか。整備には相当の経費が必要だと思いますが、一つの業者に対してそこまで経費をかける予定があるのでしょうか。

もう一つ、ナチュラルガーデン付近は西風がとても強いです。一番安全なのは、鳥取大学付属小中学校の下の辺りです。我々は毎日池に出ていますので、風の影響は全て頭に入っています。一番西風に弱い所に整備しようとしているようなので、参考までに伝えます。

(深澤市長)

参考意見をいただき、ありがとうございます。鳥取大学付属小中学校の下辺りというのは、字名は「嵐隠れ」だったと思いますが、たしかに以前、湖山池が荒れた時には「嵐隠れ」に緊急的に避難するという話を聞いたことがありますので、一番静穏が保たれる区域かと思います。湖山池も場所ごとに様々な特性がありますので、研究しながら検討したいと思います。

3 湖陵高校北側地域の市街化区域化について

<地域課題>

国道9号バイパスと湖陵高校、青葉台団地に囲まれている地域には、今は畑作などの大規模な農業はしていないにもかかわらず、いまだに市街化調整区域（農業振興地域）が存

在している。

湖山地区内は県道の拡幅工事もされており、拡幅に伴う代替地として市道沿いに住宅も建てられた。鳥取空港も「鳥取砂丘コナン空港」と愛称付けられ、観光産業の拠点としても成長しつつある地域である。今後、土地の利用を有効に計画できるよう、市街化区域へ変更してほしい。

<担当部局の所見等>

【都市整備部】

近年、人口減少や少子高齢化が進行している背景から、本市では、市街地の拡大の抑制と都市機能の集積を活かしたコンパクトなまちづくりを進めるため、原則として市街化区域の拡大は行わないこととしています。

市街化区域外縁部の市街化調整区域においては、良好な生活環境、自然環境を整備・保全することを基本としており、現時点では市街化区域への編入を考えていません。

地元の皆様の思いと土地利用の動向を、鳥取市都市計画マスタープランの内容に照らしながら、湖山地区のまちづくりと一緒に考えていきたいと思っておりますので、ご理解ください。

(都市整備部長)

本市では、昭和45年に市街化区域と市街化調整区域の線引きを行っています。これにより、市街化を促進していく「市街化区域」と、市街化を抑制していく「市街化調整区域」という2つの区域が生まれました。昭和45年以降は、人口増加や社会情勢の変化等に伴い、市街化区域の拡大を行ってきました。昭和45年当時と比較して、市街化区域の面積は3割程度増えています。人口も昭和45年頃から3割程度増加していますので、市街化区域内の居住や工業、商業などの土地利用の需要に合わせて、市街化区域を拡大してきたものです。このような中、日本の人口は2008年にピークを迎え、それ以降は減少してきています。鳥取市の人口推計では、2040年には人口が現在の9割弱に減少し、加えて、およそ5人に1人が75歳以上の後期高齢者になるものと推測されています。15歳から65歳までの現役世代が占める割合も、現在の6割から、5割程度まで減少すると推計されています。これまでは人口増加に伴って拡大してきた市街化区域ですが、今後人口減少が進行すると予想される中で、これ以上市街化区域を拡大していくことになれば、低・未利用地の増加や市街地の空洞化といった問題が出てくることとなります。現在、全市的に空家の課題もあります。人口は増えないのに市街地を拡大すれば、空家の問題等も大きくなっていくのではないかと懸念しています。また、人口が減少していくと、道路や橋などの維持管理にかかる市民1人当たりの負担も相対的に増えていきます。高齢者が増え現役世代が減少していくと、例えばこれまでは定期的



舗装等の補修を行っていたとしても、その間隔を空けざるを得なくなるなど、結果として市民サービスにご不便をおかけすることも懸念しています。

ご要望の地域の市街地調整区域は約10haですが、そのうち約8haは現在も農地法上の農地として存在していると認識しており、本市として、現状では農地としての土地利用を継続していく土地であると考えています。

一度拡大した市街地を縮小することは難しい状況ですので、鳥取市は、今あるものを上手に活用してコンパクトに暮らしていこう、公共交通を活用しながら歩いて暮らせるまちづくりを進めていこうと、「鳥取市都市計画マスタープラン」を作成しました。マスタープランでは、都市づくりの理念として、「中心拠点」や「地域生活拠点」と集落を利便性の高いネットワークでつなぐ「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を、鳥取市が目指すべき将来像としています。

本日の地域課題は、これから湖山地区も変わっていくのだから、それに合った土地利用が必要だとのことご提案だと思います。今後の土地利用の動向等を注視し、この地域が本当に必要とするまちの在り方について、地域の皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

4 湖山川兩岸（JR鉄橋～大賀橋）の護岸整備について

<地域課題>

湖山川のJR鉄橋から大賀橋の約1kmの区間は、兩岸が土手の状態のままで、いわゆる護岸未整備となっている。そのため、法尻を中心に洗掘が進むことで脆弱となり、大雨による出水のたびに、土手の崩壊、ひいては人命財産の被災が懸念される。

数年前、当区間上流部の新興住宅エリアで、洗掘の著しい箇所を対象に応急処置として袋詰玉石が投入されたが、使用材の耐久性に課題があり、決して安心できるものではない。

沿川住民の安心安全のためにも、当区間の護岸整備を改めて鳥取県に要望したいと考えている。市としても安心できるまちづくりの観点から、県に対して強力な働きかけを行ってほしい。

<担当部局の所見等>

【都市整備部】

このことについて河川管理者である鳥取県土整備事務所へ確認したところ、下記のとおり回答がありました。

（県回答）

要望区間については、河川断面はほぼ確保されているため、拡幅整備の必要性は低いと考えています。

護岸整備についても、河川流水により直接土地が流失するのではなく、降雨による土の流失が原因と考えられ、護岸の必要性は高くないと考えます。小崩落や局所的な洗掘等によって修繕する区間が一定程度の延長となった場合に護岸整備を行うこととしており、それまでの間の小崩落、局所的な洗掘等については、短期的に袋詰め玉石等で対応したいと考えます。

本市としましては、護岸の修繕が必要な部分があればお知らせいただき、その都度県へ報告を行っていきたいと考えます。県に対しては、引き続き適切な維持管理を要望していきます。

(都市整備部長)

鳥取県に再度確認しました。県によると、湖山川のご指摘の区間は計画上の断面が取れており、機能的にも十分に安全が確保されていることから、拡幅の必要性は低いと考えておられるようです。また、河川の水の流れによって直接土手が流出するのではなく、降雨による土の流出が原因と考えられるため、県として、現時点で構造物による護岸整備の必要性は高くないと考えているとのこと



ことです。今後、小さな崩落や局所的な洗堀等が起こった場合には、その都度状況に応じて修繕されるとのことですし、その中で、一定の延長にわたって修繕が必要になった場合には、それに応じた護岸整備を将来的には行いたいとのことです。

本市としても、土手の変状や護岸の修繕が必要な部分について地域の皆様から情報をいただきましたら、その都度県に状況をお伝えし、適切な維持管理に努めていただくよう要望していきたいと考えています。

(地元意見)

県の見解は、全体的な整備をする予定はないが、部分的に何かあれば対応するというところでよいですね。

(都市整備部長)

県は、日常的な維持補修は適宜行い、ある程度の延長で修繕が必要な状況になった場合には、将来的に整備も検討していききたいとのことでした。

(地元住民)

大賀橋の北側と南側とでは、全然姿が違います。河川管理者は県なので、市は県の流れで動かないといけないことは分かるのですが、同じ湖山川で何故こんなに違うのでしょうか。大賀橋から鳥取港までは全区間が護岸整備されていますが、大賀橋からJR鉄橋までは草が繁茂しています。

松杭を打ってあり川としての機能はそれなりにありますが、湖山の住民として、こんな近くに土手も無く散歩もできない川があることを非常に恥ずかしく思います。是非整備をお願いします。

県がどうこうではなく、鳥取市として地域の環境をいかに良くするかを本当に考えてく

ださい。

(都市整備部長)

県と現地確認するなど、状況の再確認に努めたいと思います。環境面のこともありますので、県にしっかりご意見をお伝えし、要望していきたいと思います。

(担当課補足：都市企画課)

現地状況を確認し、鳥取県土整備事務所へ河川管理道の整備に関するご意見をお伝えしたところ、該当箇所の護岸修繕については対岸からでも可能なため、河川管理道の整備は考えていないとのことでした。

本市としては、護岸整備と併せ、引き続き鳥取県に対して要望してまいります。

(地元意見)

湖山川左岸の管理道は鳥取バイパスのかなり手前で行き止まりになっていますが、どう感じていますか。

(都市整備部長)

一般的に、河川管理の面で、堤防等の維持管理をするための管理道は必要なものだと私も思います。県が必要かをどう判断しているのか私からは回答できかねますが、管理道があるのが望ましい施設だろうと私は思っています。

(地元意見)

具体的に言うと、湖山川左岸の管理道は、アパートの手前で終わっています。その北側には農地があり、鳥取バイパスの所にマンションが建っているのですが、この河川管理道のない所もかなり浸食されています。アパート辺りの護岸壁面は、崩れてきています。これを修繕するにはやはり管理道が必要だと思い、質問したものです。市も、現場を見て必要だということになれば、積極的に県に働きかけてください。現在、管理道が途切れた先に2か所の問題箇所があるので、管理道を設置して対応してほしいです。



(都市整備部長)

この件については、2年前の地域づくり懇談会でもご指摘いただいています。再度、特に国道9号近くの部分も含めて、維持管理のあり方を県に確認したいと思います。

5 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

たびたび「中心市街地活性化」という言葉を聞きます。どうやら鳥取市の中心市街地とは旧市内だということになっているようですが、湖山が中心市街地でなければ鳥取市の活性化はなく、鳥取駅北の活性化に無駄な税金を使うことになってしまいます。

利用者の少ない100円バス「くる梨」は即刻廃止すべきです。

わらべ館は時代に合っていません。1日に20人ほどの来場者では、個人商店ではとてもやっていけません。膨大な赤字だと思います。箱物を何とかしなければ、無駄な出費が続きます。

結婚して湖山に住み始めて40年近く経ち、鳥取市の中心市街地より湖山の方が歴史が古いことに気付かされました。山名氏の歴史をもっと基本に置いて活性化していかなければいけないと思います。

市内の中学校や高等学校は湖山地区に集中しているのに、郡部の学生が湖山の学校に通おうと思うと、鳥取駅で乗り換えなければいけません。なぜこのように無駄な動きが発生するかというと、湖山が中心ではないからです。新幹線が鳥取を走るようになったら、湖山に「鳥取駅」をもってきて、現在の鳥取駅は「鳥取東駅」にするべきだと思います。

新幹線も、鳥取は人口が少ないから採算が合わないと言われてはいますが、九州に行くには早いと思いますので、九州の人には山陰新幹線を利用してもらうなどの方策を考えていけば、いろいろなことができるのです。

現在は、湖山から北園までバスで行くには乗り換えなければ行けません。湖山から北園行きの直行バスを運行すべきです。無駄な路線を廃止し、人口の多い地域同士を結ぶ新しい路線をつくっていくという発想が大いに欠けているのです。

湖山と賀露と空港と温泉をつなげることを前提に、日本一の湖山池を活用して活性化すべきだと思います。遊覧船もよいと思いますが、鳥取市納涼花火大会は湖山池ですべきです。現在のように狭く危ない所ではなく、広い湖山池で日本一の池を映し出す、こういった大改革をしなければ鳥取市の発展はないと思います。

（深澤市長）

将来を見据えてのご提言だと受け止めたいと思います。

わらべ館を例に、箱物を見直して即刻廃止すべきといった、これは少し極端にお話いただいたと受け止めさせていただきますが、ご提案もいただきました。現在、公共施設の更新問題が全国の自治体で大変大きな課題になっています。高度成長期に次々に建設された公共施設は、20年、30年が経過し、大規模修繕や建て替え、廃止などの見直しを行う時期がやってこようとしています。これを「公共施設更新問題」と言っています。鳥取市には1,001の公共施設があり、床面積の総合計は901,632m²です。市民1人当たりでは4.65m²となり、全国平均の3.42m²と比較すると、鳥取市は公共施設が多い自治体と言えるのではないかと考えています。今後、計画的に見直しを行おうと計画を立てています。大ざっぱですが、今ある施設の29%程度を減らす目安で取り組んでいかなければ、今は大丈夫でも、将来は財政的に非常に厳しくなると考えています。今ある施設を全て廃止するのではなく、例えば同じような施設は2つあるところを1つにして

いく、異なった目的の施設も複合化していくなど、公共施設を効率的に維持確保でき、市民サービスが維持できるようにしていきたいと考えています。わらべ館は、1年間に約13万人から14万人の方にお越しいただいております。山陰地方の近隣の施設等と比較しても、そんなに遜色なく活用されています。平成7年に開館して二十数年が経過していますが、中心市街地の拠点施設として多くの皆様に親しんでいただいているのではないかと思いますし、鳥取城跡が整備されれば、今後も観光客に立ち寄っていただける施設になっていくのではないかと思います。

古くは湖山が中心だったことも重々承知しています。1545年（天文14年）に久松山山頂に山名氏の出城が築かれたことが、鳥取市の街並みが形成されていく一つの契機となったことは歴史的な事実ですが、それ以前には、この近くの天神山城跡に100年以上、因幡の国の中心がありました。鳥取市の中心市街地より湖山地域の方が、歴史が古いということがあります。そういった歴史や文化を生かしたまちづくりを、今後皆様と一緒に進めていきたいと思っています。すでに「霞の里ヒストリーロード」にも取り組んでおられますので、我々も一緒になって取り組んでいきたいと思っています。

山陰新幹線は、昭和48年に基本計画が閣議決定されて以降、全く動いていません。私は山陰縦貫・超高速鉄道整備推進市町村会議の会長を務めています。この会議には西日本の約50の自治体が加入しており、現在の状況を何とかしたいと国に提言するなど、様々な活動をしているところです。引き続き、取り組んでいきたいと思っています。

バス路線等も見直しが必要だと思っています。人口減少や人口分布等も変わってきていますので、随時見直すことも必要だと思っています。

湖山周辺では、現在、県がかるいちと鳥取砂丘コナン空港をつなぐ最短道路を整備中です。地域資源を活用しながら、地域の活性化等に取り組んでいきたいと思っています。

鳥取市納涼花火大会を湖山池で開催してはどうかのご提案は、以前も何度かいただいています。検討したこともあり、一度開催してみてもよいのかもしれませんが、騒音問題や安全性などクリアしなければならない問題もありますので、ご提案として受け止めたいと思います。

（地元意見）

私は歌が好きなので、ユーチューブ（YouTube）に自分が歌った歌を投稿しています。青島を背景にしています。この半年余りで、青島を背景にした投稿の再生回数は千回を超えていますし、白兔海岸を背景にした投稿の再生回数は5千回に迫っています。我ながら大したものだと思っています。鳥取市は県庁所在地であり、中核市となる市です。少しでも鳥取市の映像が世界に流れるようにと投稿しています。よければ見てください。

（深澤市長）

本日帰りましたら、早速パソコンで歌を聞かせていただきたいと思っています。

鳥取市を発信していくことはとても大切なことです。我々は「シティセールス」と呼んでいますが、我々が何気なく思っていることでも素晴らしいものがあると思います。鳥取市の素晴らしさ、地域資源を今一度見直し、皆で共有しながら大いに発信していきたいと思っています。

(地元意見)

本日配布された中核市移行のパンフレットを読みましたが、中核市移行によって新しい課が6つできるということでしょうか。

また、移行に伴い職員が増員されると思います。市役所新庁舎が建設されますが、職員の増員に合わせて造られるのでしょうか。

もう一つ、県から市に事務が移譲されるようですが、運営資金は市に入りますか。

(中核市推進局長)

現在、県から約2,600の事務が移譲されることになっています。一番大きな事務は保健所業務で、鳥取市が新しい保健所を整備しますので、それに合わせた組織体制にしていこうと考えています。

県の保健所としては現在、鳥取市江津に3課と、鳥取市立川町の東部総合事務所に環境関係課が2課あります。本市もそれに合わせた体制を取っていこうと考えていますし、保健所以外の業務については今ある部署の中で分担していこうと考えていますが、今後、若干変更する可能性もありますので、ご了承ください。

中核市移行に伴い、75名程度の正職員が新たに増えることになっています。円滑な事務の移譲のため、初めに約50人の県職員の派遣を受け、徐々に研修を積みながら市職員に置き換えていこうと考えています。現在建設中の市役所新庁舎の完成後には、駅南庁舎で行っている業務が新庁舎に移転しますので、県から移譲される保健所業務や市の保健センター業務、子育て支援業務を、駅南庁舎に集約しようと考えています。駅南庁舎を保健所として利用できるようになるまでの約2年間は、江津の保健所機能は鳥取市さざんか会館2階で、環境関係は鳥取市立川の県東部庁舎4階で、それぞれ業務を行う予定です。詳細はとっとり市報1月号など、機会を捉えてお伝えしていきたいと思います。

現在県が行っている業務は、県の財源と国からの交付税により実施しています。中核市に移行すると、移行に伴う財源は国からの交付税により措置されます。また、県から業務委託を受けた関連事業等については委託料を充てるなど、増員される職員の賃金も含め、必要になる経費はそれらで全て賄うことにしています。

6 市長あいさつ

一言ご挨拶を申し上げます。

午後8時までの予定でしたが、本日は熱心にご議論、ご質問いただきました。まずもって心から感謝申し上げます。すぐに対応させていただけることから将来にわたって研究が必要なことまで、たくさんのご意見等いただきました。しっかり受け止め、一つ一つ着実に取り組んでまいりたいと考えています。

人口減少など非常に深刻な状況もありますが、今こそ将来を見据え、皆で力を合わせて鳥取のまちが活力と魅力に溢れたまちであり続けるよう頑張っていかなければならないと思います。今が踏ん張りどころだと思います。その取り組みの一つが、中核市移行です。いよいよ来年度から、鳥取市は中核市としてスタートします。しっかり取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

限られた時間の中で、ご意見等も十分お伺いできていないと思います。地域づくり懇談会とは別の機会にも、いろいろな形でお気軽にご意見やご質問をお寄せいただければありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、この地域づくり懇談会にご参加いただいたことに重ねて心から感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日はありがとうございました。